

1 学校教育目標

- 自ら学び、すすんで努力する生徒 ○ 他を思いやり、礼儀正しい生徒 ○ 正しい判断力をもち、心身ともに健康な生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒・教職員・保護者・地域が誇れる学校 ○学ぶ楽しさが実感できる学校 ○あいうえお学校 「あ」… 明るいあいさつが行き交う学校 「い」… いじめを許さない学校 「う」… 美しい学校 「え」… 笑顔あふれる学校 「お」… 思いやりのある学校
○児童・生徒像	○自らの生き方に自信のもてる生徒 ・自ら学び、根気強く努力する生徒 ・礼儀正しい生徒 ○知・徳・体の調和のとれた生徒 ・自他共に大切に作る生徒 ・心身ともに健康な生徒
○教師像	○信頼される教師 ・生徒を一人の人間として尊重し、こよなく愛す教師 ・組織の一員として、連携と協力体制を築く教師 ・保護者や地域と協働して、教育を推進する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<現状>

- ・生徒が安全・安心に生活できる学校環境をさらに整えるとともに、良好な人間関係の構築に努めている。
- ・生徒の学習の成果等を発表する場の確保など、様々な取組が定着してきた。三年間の中学校生活を通して身に付けた自立心と自信を土台として、自らの未来を切り拓いていく生徒の育成に取り組んでいる。

<前年度の成果と課題>

- ・基礎学力の定着や生徒一人一人に応じた学力向上に対する取組が定着してきた。
- ・教員の組織的取組をさらに向上させるとともに、授業力向上および授業改善をさらに推進していくことが課題である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学力の定着と向上		<ul style="list-style-type: none"> 年度末到達度確認テストの正答率各学年 60%以上 令和3年度区調査通過率各学年 70%以上 		結果及び自己評価項目等は年度末記入					
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	放課後 補充教室	国語 数学 英語	6月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> ① 前年度の内容に関する基礎学力の定着 ② 区学力調査の復習問題の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 課題テスト及び定着確認テストにより、取組の成果を検証 次へのステップ及び自作教材等を活用 	1月に定着確認テストを実施し、正答率 A生徒 10%以上 B生徒 20%以上上昇	結果及び自己評価項目等は 年度末記入		
			10月 ～ 1月	<ul style="list-style-type: none"> ① 既習事項の定着等に課題のある生徒層[A]への基礎学力定着に向けた取組 ② ①以外の中間層生徒[B]へのさらなる学力定着に向けた取組 	[1・2年] ① 家庭学習プリントを1週間実施 ② 翌週始に課題テスト ③ 結果を基に生徒選出 ④ 事後に定着確認テストを実施 <ul style="list-style-type: none"> 次へのステップ及び自作教材による評価 [3年] 各教科で自作教材により評価				
			2月 ～ 3月	2月初めに[A B]層生徒に定着確認テストを実施	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度内容の定着を図る補充教室を実施 特に区学力調査で区平均値を下回った教科について重点的に指導 				

2 継続	授業力向上	全教科	年間 2 回実施	① 管理職による授業観察 ・授業観察時に全教員が 学習指導案を作成 ・管理職による授業評価 の実施 ・授業評価に基づき、全教 員が授業改善策を作成 ②授業アンケートの実施 ・説明のわかりやすさ、発 表の機会設定、生徒の学 びあい等について全生 徒にアンケート調査 ・調査結果を踏まえ、授業 改善策を作成	①年度末到達度確認テ ストによる検証 ②次年度区学力調査に よる検証 ③生徒アンケート調査 による検証	①年度末到達度確認テ ストの正答率各学年 60%以上 ②令和3年度区調査通過 率各学年 70%以上 ③生徒アンケート調査の 数値全項目 10%以上向 上	結果及び自己評価項目等は 年度末記入
3 新規	ICTの活用	全教科	年間 2 回実施	① デジタル教科書の活用 ② モニター機能の活用	① 管理職等の授業観 察点検 ② 活用確認調査	① I C T機器を活用した 授業を行った教員が 80%以上 ②事後アンケートで、活 用肯定意見が 80%以上	

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の育成、居場所づくり、人間関係づくり		年間 30 日以上の欠席生徒を 3.5%以内に減らす。	結果及び自己評価項目等は年度末記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を高める指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感に関する生徒の肯定的な評価を 80%以上にする。 Q-U 調査 2 回目の調査時に「友人に認められている」と答えた生徒割合を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学年行事で自尊感情を高める場면을意図的、計画的に設定 生徒会を中心としたボランティア活動の充実 道徳や総合的な学習の時間等を利用して、自己肯定感を育む指導の計画的な実施 	結果及び自己評価項目等は年度末記入		
いじめ指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> いじめ件数の縮減及び全件解決 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育週間を年 2 回設定し、生徒会が中心となり各委員会の取組を充実 PBS（ポジティブな行動支援）によるいじめの未然防止 			